

1 CSOラーニング制度の25周年イベントを開催しました！

SOMPO環境財団が実施する「CSOラーニング制度」は、大学生・大学院生を環境団体ヘインターンとして派遣する人材育成事業です。「木を植える人を育てる」という財団の理念のもと、2000年にスタートし、地区や受入団体を拡大しながら、このたび25周年を迎えることができました。

これまでに受入にご協力いただいた団体数は86、累計修了生は1,391名にのぼります。NPO・NGOを対象とした長期・有償のインターンシップは他に類を見ないユニークな制度であり、長年にわたる環境人材育成の実績が評価され、近年では複数の賞を受賞す

ることができました。運営を支えてくださっている関係者の皆さまに、改めて心より御礼申し上げます。

11月8日（土）、制度開始25周年を記念し、「CSOラーニング制度25周年イベント — つなぎ、つながり、未来をつくる」を開催しました。当日は修了生や受入団体の皆さま、歴代の財団関係者など170名が一堂に会し、節目の年を盛大に祝いました。

第1部では損保ジャパン本社ビル会議室にてシンポジウムを開催し、第2部では会場を野村コンファレンスプラザ新宿に移し、立食形式の懇親会を行いました。以下では、当日の様子をご紹介します。

〈第1部：シンポジウム〉

第1部では、25年間にわたる環境人材育成の歩みを振り返るとともに、制度の未来について考えるシンポジウムを開催しました。



開会の挨拶

冒頭、環境財団の西澤理事長より、関係者の皆さまへの長年のご支援に対する感謝の言葉が述べられました。また、経団連自然保護協議会での活動を通じて感じている、世界的にサステナビリティへの取り組みが後進しつつあることへの懸念に触れつつも、「連携と対話」を通じて粘り強く取り組みを続けていく重要性が語られました。

講演

環境省大臣官房総合政策課 環境教育推進室長の黒部一隆氏をお迎えし、環境教育およびESD推進の現状についてご講演いただきました。脱炭素やネイチャーポジティブなど多様な環境課題の解決には、行政のみならず企業や個人がネットワークの中で主体的に行動することが不可欠であるとし、「周囲を巻き込みながら取り組む」CSOラーニング制度の活動に大きな期待が寄せられました。

挨拶と報告

環境財団の中村専務理事より、制度のこれまでの歩みと最近の取り組みについて報告がありました。関東1地区・13団体からスタートしたCSOラーニング制度は、現在では5地区40以上の団体へと広がり、2019年からはインドネシアでも事業を展開しています。多くの修了生が行政・企業・NPOなど環境分野の第一線で活躍しているほか、個人としての活動も含めると、6割を超える方が現在も環境活動に関わっていることが紹介され、人材育成の成果が着実に表れていることが共有されました。あわせて、9月に実施した大阪・関西万博でのイベントや、新たに立ち上げた修了生コミュニティについても報告しました。

パネルディスカッション

進行役およびパネリストとして5名の修了生に登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。事前に実施した修了生アンケートの結果をもとに、参加動機や制度との関わり方の変化、制度での経験がそ

の後のキャリアに与えた影響などについて、率直な意見交換が行われました。今後に向けては、より幅広い世代への波及や、家族など身近な人を巻き込んでいくことの重要性が語られたほか、50周年、100周年と制度が継続してほしい、という期待の声もあがりました。



閉会の挨拶

SOMPOホールディングスの酒井グループCSUoよりご挨拶をいただきました。修了生一人ひとりが自ら選択し行動する姿に勇気をもらっていること、また新たな修了生同士のつながりへの期待が述べられるとともに、SOMPOグループとしても社会課題解決に向けた取り組みを一層強化していく決意が示されました。

〈第2部：懇親会〉



第2部では会場を野村コンファレンスプラザ新宿に移し、立食形式での懇親会を行いました。同期同士で旧交を温める姿に加え、年代を超えた新たな出会いも生まれ、会場各所で交流の輪が広がりました。また、CSOの方々を囲み、当時の活動を懐かしむ修了生の姿も印象的でした。

ご参加いただいた5つのCSOの皆さまからのご挨拶では、「ラーニング生との活動が団体の活力になっている」との言葉が相次ぎ、学生・団体・財団の三者がWin-Win-Winの関係を築くという制度の在り方を、再認識する機会となりました。



本イベントを通じて、関係者の皆さまが長年積み重ねてきた歴史の重みを改めて感じるとともに、制度から巣立った修了生同士がつながることで、新たな価値や可能性が生まれる手応えを強く感じました。財団では、立ち上げたばかりの修了生コミュニティの運営を通じて、CSOラーニング制度をハブとしたネットワークづくりに、今後も継続して取り組んで参ります。

2 新宿区「みどりの小道」環境日記コンテストへの協賛

SOMPO環境財団では、東京都新宿区の小学生を対象とした新宿区「みどりの小道」環境日記コンテストに協賛しています。このコンテストは、「環境」をテーマに小学生一人ひとりが考えたこと、学んだこと、体験したことなどをまとめた日記（5週間以上記載）の中から、優秀な作品を表彰するもので、12月20日に2025年度



「SOMPO環境財団わくわくエコの環賞」を授賞した5名の表彰式を開催しました。（1名欠席）

今年度は新宿区内の小学校20校から1005件の応募がありました。

作品は、ゴミ問題から脱炭素や生物多様性保全に関すること、SDGsの諸外国との比較の考察など、毎日環境に関するテーマを考え、挿絵や表を挿入し、視覚的に訴えた書き方の工夫がされるなど、大変レベルの高い作品ばかりでした。



表彰式では中村専務理事から財団の取り組みの紹介とともに、授賞者1人1人に表彰状を授与しました。未来を担う子どもたちが、本取り組みを通じ、木を植える人となり、羽ばたいてくれることを期待します。

3

環境省主催「グッドライフアワード」環境大臣表彰（企業部門）を受賞しました

環境省では環境に優しい社会の実現を目指し、各種団体、企業などが行っている「環境と社会にいい暮らし」を実現するための取組を表彰し、取組を更に広げるための普及・啓発を行うことで、第六次環境基本計画で提唱した地域循環共生圏（ローカルSDGs）の創造につなげることを目指しています。

この度、「CSOラーニング制度」による環境人材育成の取組みが、「第13回グッドライフアワード」において、環境大臣賞（企業部門）を受賞しました。これは、25年以上にわたり、CSOラーニング制度を通じ環境人材育成の取組みを行ってきたことが評価されたものです。12月6日に渋谷スクランブルホールで表彰式が行われ、SOMPO環境財団からは中村専務理事が登壇し、取組発表を行うとともに、環境省上田事務次官から表彰状が授与されました。

これまで、本制度に携わっていただきました受入団体の皆さまおよび制度募集にご理解・ご支援をいただきました大学等関係者、財団関係者の皆さまに改めて御礼を申し上げます。今後もCSOラーニング制度による環境人材の育成を行うとともに、制度修了生のコミュニティによる連携・協働等の促進により、持続可能な社会の実現に向け取り組んで参ります。



上田事務次官からの表彰状の授与



表彰式集合写真

4

2025年度環境保全プロジェクト助成先を取材

SOMPO環境財団では、全国で行われている環境保全プロジェクトがより充実したものとなるよう、「環境保全プロジェクト助成」を実施しています。

2025年度も多くのご応募をいただいた中から、11月の認定委員会で10件の助成先を決定しました。

今回は、助成先に選定された「みず多摩」の事務局代表・小山貴弓さんに、活動の内容や助成金の使途などをお聞きました。

●貴団体はどのような団体ですか？ （活動地域や活動目的など）

東京都多摩市の市民団体「みず多摩」では、メンバー全員が多摩市の市民団体「よみがえれ、大栗川を楽しむ会」が主催する多摩川支流の大栗川の清掃活動に参加しています。清掃活動では集めたごみの分類調査を行って、使い捨てプラスチック類やペットボトルのごみの多さに驚き、ごみ拾い以外でも自分たちができることをやりたいという想いで「みず多摩」をつくり、主にペットボトル削減と給水スポット普及・拡大の活動を行っています。



●現在はどのような活動に取り組んでいますか？



多摩市内の給水スポットの普及啓発活動を行っています。給水スポットをマップ化して、多摩市の公共施設やウーリングシェルターなどでパンフレットを配布したり、市内のイベントで給水スポットを設置して実際に体験してもらうなどの周知活動を行っています。また、市内の小・中学校で使い捨てプラスチックやマイクロプラスチックが環境にもたらす影響についての出前授業も行っています。その他、広く情報を届けるためにウェブサイトでも多摩市の給水スポット情報を公開しています。

●当財団の助成金はどのように活用される予定ですか？

給水スポットを設置してもらえる店舗募集のチラシを作り、夏場の給水スポット拡大を目指して、カフェやオフィスなどの登録店舗をさらに増やしていこうと考えています。登録店舗の情報はウェブサイトに掲載し、更新していきます。また、多摩市の設置済みの給水機にQRコード付きのステッカーを制作・貼付して、給水スポットの利用頻度を高められたらと思います。さらに、プラスチック汚染問題に関連する映画上映などを行い、消費行動について考えて頂く機会を提供します。幅広い活動がご支援で実施できることに感謝いたします。



プラスチックごみの削減に加えて、熱中症対策の「命の水」の確保を兼ねた公共性の高い取組みであることや、給水スポットの拡大という地道な活動を着実に進める行動力が認定委員会で高く評価されていました。助成金を活用いただき、活動が更に推進されることを期待しています！

※【連載】CSOラーニング制度派遣先インタビューはお休みいたします。